

平成16年3月

佐賀県レッドリスト

Red List 2003

佐賀県環境生活局



鳥類

birds


鳥類：絶滅種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
オナガ	カラス	本州の中部以北に留鳥として広く分布する。	


鳥類：絶滅危惧Ⅰ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
オオアカゲラ (ナミエオオアカゲラ)	キツツキ	香嵐山系では1990年代後半に数回の確認例があるが、2000年以降の確実な記録はない。多良山系では近年全く確認できていない。	春振町、太良町
オオヨシゴイ	サギ	夏鳥として渡来し、本州中部以北や佐渡の湖沼のヨシ原や休耕田などのよく茂った草原にすむ。	浜玉町 玉島川
カラフトアオアシシギ	シギ	旅鳥としてほぼ全国的に記録があるが、個体数はごく少数である。大塚棚ではほぼ毎年記録されている。	大塚棚、鹿島市新籠
クロツラヘラサギ	トキ	日本へは冬鳥として渡来するが、九州沿岸に集中しており、毎年数十羽が越冬している。	有明海沿岸の河口域
ササゴイ	サギ	夏鳥として本州から九州の清流域に渡来し、付近の林で繁殖する。	鹿島市 中川中流域(繁殖)、北波多村徳須恵川(繁殖)、 浜玉町～七山村玉島川、多久市牛津川
ツクシガモ	カモ	冬鳥として主に九州の干潟に11月頃～4月に渡来する。	有明海の干潟。
ハヤブサ	ハヤブサ	九州から北海道にかけての海岸の断崖などで繁殖し、非繁殖期は各地で見られるが、個体数は多くない。	玄海の離島等ごく少数が繁殖する。非繁殖期は県内各地で見られる。
ヘラシギ	シギ	旅鳥として全国の干潟や海岸に渡来するが、ごく少ない。	大塚棚、新籠
ミサゴ	タカ	全国の海岸や湖沼・ダムや河川に生息している。海岸近くの岩壁で繁殖して、冬期は南に渡るものが多い。	玄海の島嶼で繁殖。非繁殖期は各地で見られる。特に伊万里湾(伊万里川・有田川河口)では生息密度が高い。
ヤイロチヨウ	ヤイロチヨウ	主に四国・九州南部のよく茂った山林に渡来して繁殖するが、個体数は多くない。九州北部では特に少ない。	黒髪山・経ヶ岳・八幡岳
ヤマセミ	カワセミ	九州以北に留鳥として分布するが一部は漂鳥。主として河川の上流域や湖沼に生息する。	嘉瀬川水系・蔵木川・鹿島市中川・城原川等、伊万里市南波多水溜(1999年に繁殖確認)
ヨシゴイ	サギ	全国の水田・湿地・湖沼畔などのヨシ原等に生息する。	有明海沿岸のヨシ原



鳥類：絶滅危惧Ⅱ類種

和名		科	生育生息状況	主な生育生息地
アカアシシギ	シギ		日本には少数が春と秋に旅鳥として渡来し、一部越冬する。北海道で少数が繁殖する。	有明海沿岸の河口域
アカシヨウビン	カワセミ		全国のおよそ茂った森林に夏鳥として渡来して繁殖するが北部九州では少ない。	黒髪山系、経ヶ岳、伊岐佐
ウミスズメ	ウミスズメ		北海道から東北にかけて少数が繁殖するが、大半は冬鳥として九州以北の沿岸で見られる。	唐津市、鎮西町、呼子町。
オオコノハズク	フクロウ		全国的に分布・繁殖するが個体数は多くない。北方のものは冬期に南へまたは低地に移動するものがある。	各地で記録があるが、近年の記録はごく少数である。
オオタカ	タカ		九州以北で繁殖し、一部は南へ渡る。冬鳥として渡来するものもある。	巨勢川調整池、有明海沿岸
カラシラサギ	サギ		日本ではまれな旅鳥で、主に春から夏に少数が記録される。	有明海沿岸、有田川河口
クロサギ	サギ		日本では本州中部以南の海岸に留鳥として分布している。岩礁地帯に多い。	玄界の沿岸及び島嶼、加唐島沿岸（繁殖）
コアジサシ	カモメ		本州以南に夏鳥として渡来して繁殖する。春秋には旅鳥として各地を通過する。	有明海沿岸（鹿島市新籠・有明町有明干拓・川副町平和棚・早津江川河口）、玄海沿岸
コサメビタキ	ヒタキ		九州以北に夏鳥として渡来して繁殖する。	繁殖期の記録は近年は希。（過去に唐津市、鳥栖市）渡り時期は各地で記録されるが、近年は少ない。
サシバ	タカ		九州から本州にかけて夏鳥として渡来・繁殖し、秋は南へ渡る。一部は沖繩や奄美大島等で越冬する。	多良山系、相知町、厳木町、浜玉町、七山村
サンカノゴイ	サギ		本州の一部と北海道で局地的に繁殖し、冬は本州中部以南に移動するものが多い。	有明海沿岸の干拓地
サンコウチヨウ	カササギヒタキ		本州以南に夏鳥として渡来し、低地から山地のよく茂った林で繁殖する。	黒髪山系、経ヶ岳、脊振山系
サンシヨウクイ	サンシヨウクイ		主として本州、四国に夏鳥として渡来し、広葉樹林で繁殖する。4月頃に渡来し、9月頃に渡去する。	鳥栖市（1975年に石谷山で繁殖）
シベリアオオハシシギ	シギ		旅鳥として4・5月頃と8・9月頃に1～2羽の記録が全国的にあるか希である。	東与賀町大授棚
ズグロカモメ	カモメ		冬鳥として主に九州の干潟に渡来し、11月～3月にかけて見られる。	大授棚、新籠
ダイシヤクシギ	シギ		全国の広い干潟に旅鳥として渡来するが多くのない。九州の大きな干潟では群れで越冬する。	大授棚、新籠、六角川河口
チュウヒ	タカ		全国のヨシ原に冬鳥として渡来するが、少数は本州中部以北で繁殖する。	有明海沿岸の干拓地、伊万里湾岸の干拓地
ツバメチドリ	ツバメチドリ		春秋に旅鳥として渡来するが、多くない。本州・九州で繁殖が確認されている。	有明海沿岸部の干拓地、造成地。
ツミ	タカ		日本では、大部分が夏鳥として渡来するが、一部は越冬している。この他渡り時に観察される。	相知町
ナベヅル	ツル		主として鹿児島県出水市周辺で数千羽が越冬する。ほかでは希。	本県では春と秋の渡りの時に通過し、一部が干拓地等を中継地としている。
ハチクマ	タカ		本州以北に夏鳥として渡来し繁殖する。ごく少数は九州でも繁殖する。	黒髪山系
ホウロクシギ	シギ		全国の広い干潟に旅鳥として渡来する。希に越冬するものもある。	大授棚、新籠、早津江川河口
マナヅル	ツル		主として鹿児島県出水市周辺で毎年越冬する。渡りの時は熊本・長崎・佐賀等を通過する。	北帰行時に県の西北部の干拓地などで観察される。
ミゾゴイ	サギ		本州・四国・九州の低山帯の雑木林に夏鳥として渡来・繁殖する。朝や夕方・夜間に活動する。	経ヶ岳・脊振山系・厳木町・黒髪山
ヨタカ	ヨタカ		全国の低山や山地の草原、林縁等に夏鳥として渡来・繁殖する。	黒髪山系


鳥類：準絶滅危惧種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アオバズク	フクロウ	夏鳥として全国の低地から山地の雑木林・松林等に渡来し、繁殖する。	大和町、唐津市、鹿島市等の社寺林
アカハジロ	カモ	日本には数少ない冬鳥として渡来し、北海道から九州まで記録されている。海域にはあまり見られず、湖沼、河川で単独か、ホシハジロ等の群に混じっている例が多い。	白石町、鹿島市、佐賀市
オオハシシギ	シギ	旅鳥として全国の干潟やハス田などに渡来するが少ない。少数は越冬する。	大塚棚、有明干拓
オシドリ	カモ	主として本州中部以北の湖沼群の森林で繁殖し冬期は南下するが、九州でも少数は繁殖する。山間の溪流や池などに生息し、開けた水面にはあまり出てこない。	県内各地のダム湖や、山間部の溜池・河川
カラスバト	ハト	本州中部以南の沿岸地域や島に留鳥として生息し繁殖するが局地的である。	玄界の島嶼 馬渡島、加唐島、松島、高島
キリアイ	シギ	旅鳥として干潟や内陸の福地に渡来する。ハマシギやトウネンの群れに混じっていることが多い。	有明海の干潟及びその周辺の後背地（休耕田等）
コミミズク	フクロウ	冬鳥として全国に渡来して、海岸や川岸の草原などに生息する。夕方から活動してネズミなどを捕らえるが、昼間でもしばしば活動する。	有明海沿岸の干拓地、嘉瀬川河川敷
ツルシギ	シギ	全国の水田、河口部や干潟に旅鳥として渡来する。	有明海沿岸 伊万里湾沿岸
トモエガモ	カモ	冬鳥として主に本州中部以南に渡来するが、一部地域を除いて個体数は少ない。内陸の湖沼を好む傾向がある。	有明海沿岸（白石町新拓、鹿島市新籠）など
トラフズク	フクロウ	本州中部以北の林で繁殖し、本州以南で越冬する。越冬時は小群でいる事が多い。	佐賀市・久保田町（森林公園）
ハイタカ	タカ	各地の丘陵地、林縁等で見られるが少なく、定期的渡来地は無い。	各地の丘陵地、林縁等で見られるが少ない。
フクロウ	フクロウ	大木のある森林に留鳥として生息する。	県内各地の平地から山地の大木のある森林や社寺林。
ヘラサギ	トキ	希な冬鳥として全国の海岸で記録があるが、定期的な渡来地は少ない。	有明海沿岸


鳥類：情報不足種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
クイナ	クイナ	秋から冬にかけて、本州中部以南に渡来する。平地の湿地、川辺などで観察される。	冬期にヨシ原周辺に飛来する。
シマクイナ	クイナ	小さくて姿が見つけにくく、詳しい生息状況は不明である。主に冬鳥として全国的に記録がある。	干拓地やダム湖畔などで、わずかな記録がある。
タマシギ	タマシギ	主に本州以南で局地的に繁殖する。	県内各地の平野部の水田・ハス田・クリーク等に生息し、冬期の記録もある。
ヒメクイナ	クイナ	夏鳥として本州中部以北に飛来するが、多くない。南日本では旅鳥で、一部が越冬する。	旅鳥として、干拓地等で記録がある。
ブッポウソウ	ブッポウソウ	本州・四国・九州に、夏鳥として渡来し繁殖する。	
ヤマドリ（アカヤマドリ）	キジ	九州・四国・本州の低山から山地の森林に生息。姿を見る機会は少ない。	黒髪山・脊振山・多良山系等の各山地


鳥類：絶滅の恐れがある地域個体群

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ケリ	チドリ	近畿以東の本州で繁殖するが、分布は局地的。九州や四国では主に冬鳥であるが、少数が繁殖する。	鳥栖市、北茂安町、千代田町、中原町



昆虫・クモ類

insects / arthropods


昆虫・クモ類：絶滅種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
コフキヘイトトンボ	イトトンボ	成虫は6月頃より見られる。背丈の低い草に覆われた滞水、水田などに住む。過去、佐賀市内の水田のほとりで記録され(1951年)、鳥栖市付近(データなし)で観察された以外は知られていない。	過去に佐賀市、鳥栖市付近で記録がある


昆虫・クモ類：絶滅危惧Ⅰ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
オオウラギンヒョウモン	タテハチョウ	1980年代は武雄市眉山や相知町八幡岳でも採集された。現在は藤津郡嬉野町大野原高原にのみ生息しているが、生息数が極めて少ない。年1回の発生で、佐賀県では成虫は6月中旬から発生する。食草は各種スミレ類である。	武雄市眉山(絶滅)、相知町八幡岳(絶滅)、嬉野町大野原
オオシモフリスズメ	スズメガ	成虫は3月下旬～4月上旬にのみ出現する。燈火に飛来したものが採集された。	大和町都渡城～富士町熊ノ川
ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	1992年までは4産地が知られていたが、1993～1994年にかけて、脊振村一谷の産地は池が埋め立てられて絶滅してしまった。他の3産地は、個体数が少なく、池の状態もゴミなどが投げ込まれている。	佐賀郡富士町杉山、東松浦郡浜玉町鳥巢、東松浦郡七山村檉原温泉、神埼郡脊振村一谷
コガタノゲンゴロウ	ゲンゴロウ	不明、確実な産地はない。	東松浦郡七山村
コハネアイトトンボ	アオイトトンボ	成虫は6～10月に見られる。特に8月末～9月に多い。おもに平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水などに生息する。1970年代に唐津市、伊万里市で記録があるが、近年は未確認。	過去に唐津市、伊万里市で記録がある
タイワンツバメシジミ	シジミチョウ	1980年代は少ないながらも数産地で見られていたが、現在は東松浦郡西町にのみ分布している。しかも極めて少ない。	東松浦郡西町名護屋
タガメ	コオイムシ	成虫で越冬し、繁殖は6月頃から始まり、9月には新しい新成虫が出現することが知られている。水田やその周辺の水辺に生息するが、県内での生息地は未確認である。	佐賀市と浜玉町で水銀灯に飛来した個体を採集した記録がある
フジミドリシジミ	シジミチョウ	鳥栖市九千部山～石谷山一帯のブナ林にのみ生息し、年1回発生で、佐賀県では成虫は6月中旬から6月下旬にかけて出現する。	鳥栖市九千部山から石谷山
ベッコウトンボ	トンボ	成虫は4月下旬～5月下旬に見られる。幼虫は、平地や丘陵地の抽水植物の繁茂する腐植栄養型の池沼や水郷地帯のヨシやマコモが生育する溝などに生息する。1973年に佐賀市で発見されて以来、県内10カ所あまり知られていたが、現在確実な生息地は1カ所である。	佐賀市久保泉町



昆虫・クモ類：絶滅危惧Ⅱ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ウラキシジミ	シジミチョウ	佐賀県では現在のところ多良岳にのみ産する。春振山地は食樹であるシオジのみならぬが、今後県内で新しい産地が発見される可能性は極めて少ないと思われる。多良山系は調査が必要である。年1回の発生で、佐賀県では成虫は6月中旬～7月下旬に見られる。	藤津郡太良町多良岳
ウラナシジャノメ	タテハチョウ	6～7月、8～9月の年2回発生。幼虫はイネ科植物を食う。林縁の草地で見られることが多い。	鳥栖市、三瀬村、小城町、武雄市、佐賀市、大町町、塩田町、鹿島市、唐津市、厳木町、北波多村、七山村、呼子町、鎮西町、肥前町、伊万里市、富士町
オオクワガタ	クワガタムシ	日中は樹液の出る木の洞にいて、ほとんど出歩くことはなく、日没から深夜にかけて樹液を訪ねる。幼虫は各種広葉樹の朽木を食べる。	県内全域に棲息すると考えられているが、佐賀平野東部に密度が濃い
キイロヤマトンボ	エゾトンボ	成虫は6月～7月に見られる。幼虫は清流の中流河川で、ゆるやかな流れの砂質底に住む。未成熟成虫は、林で生活する。県内ではゴヤマトンボに混じって縄張り飛行するが、個体数は少ない。	嘉瀬川水系、筑後川水系の田手川、城原川の中流域に局所的に生息
キペリマメゲンゴロウ	ゲンゴロウ	県内どここの産地も数は多くない。	佐賀郡大和町石井樋、神埼郡春振村田手川
キマダラカゲロウ	マダラカゲロウ	多布施川においては生息個体数は多い。	多布施川
クロゲンゴロウ	ゲンゴロウ	ゲンゴロウの生息環境とほとんど同じである。1993～4年にかけて春振村一谷の産地は池が埋め立てられて絶滅している。また現在の生息地もゴミなどが投げ捨てられて、状態は極めて悪化している。	東松浦郡七山村豊原温泉、佐賀郡富士町杉山、東松浦郡浜玉町鳥巢、神埼郡春振村一谷
サワダマメゲンゴロウ	ゲンゴロウ	1990年6月18日鹿島市奥山で21頭採集。自然林内の清流域で、落葉が堆積した小さなよどみに生息。91、92年連続して調査したが発見できたのは90年だけであった。海岸近くにすみ、海水の流入がある水路や水溜りに生活する。有明海（筑後川河口の佐賀県側）で1950年に発見されたが、その後知られない。1996年に佐賀県北部海岸で多産地が発見されている。シロウミアメンボと混生する。	鹿島市奥山
シオアマメンボ	アメンボ	7～9月に沿岸域で確認されている。シオアメンボと混生	有明海、肥前町・伊万里市の海岸
シロウミアメンボ	アメンボ	1980年代は個体数が多かったが、その後、食樹であるミカン科のキハダかかなり伐採され、現在はかなり少なくなった。佐賀県では4月上旬～5月下旬に出現する。	玄海町、肥前町？、伊万里市？の沿岸域
スギタニルリシジミ	シジミチョウ	1992年6月19日鎮西町波戸キャンプ場の岩礁地帯の潮だまりで採集した。海岸線の岩礁部には広く分布している。	藤津郡太良町中山、鹿島市奥山、鹿島市平谷
チャイロチビゲンゴロウ	ゲンゴロウ	1991年に東松浦郡相知町久保で発見されて以来、新しい産地は発見されていない。1993年頃埋め立てにより絶滅。	東松浦郡鎮西町波戸キャンプ場
チンメルマンセスジゲンゴロウ	ゲンゴロウ	成虫・幼虫とも砂地の底質に浅く潜りユスリカ幼虫等を捕らえ吸汁する捕食者である	東松浦郡相知町久保
トゲナババタムシ	ナババタムシ	成虫は6～8月に出現する。おもに平地や丘陵地、低山地の日当たりの良い滲出水のある湿地や湿原、休耕地に生息する。成熟雄は植物間の小さな空間で縄張りを張る。県内では春振山地に生息している。	多布施川
ハッチョウトンボ	トンボ	成虫は7～10月に見られる。おもに平地や丘陵地の陸水植物が繁茂する腐植栄養型の池沼に生息する。県内では1977年に採取されて以来記録がなかったが、1999年採取された。生息個体数は極めて少ない。	七山村豊原温泉、富士町市川、厳木町天川
マイコアカネ	トンボ	成虫は6～8月に見られる。湿地の背丈の低い草が繁茂した所に生息する。1994年6月に七山村で初めて発見され、以後この地で生息しているのが観察されている。プナ林に6～8月出現する。幼虫はプナの生木の幹を食害するが、枯死させる程の加害には至らない。少ない。	山内町宮野
モートンイトトンボ	イトトンボ		東松浦郡七山村豊原温泉
ヨコヤマヒゲナガカミキリ	カミキリムシ		春振山系、多良山系の尾根筋に残るプナ林
ヨドシロヘリハンミンヨウ	ハンミンヨウ	夏季にヨリ原の発達する河口域に出現する。	太良町の有明海沿岸


昆虫・クモ類：準絶滅危惧種

和名		科	生育生息状況	主な生育生息地
アオサナエ	サナエトンボ		成虫は5月～7月に見られる。幼虫はおもに平地や丘陵地、低山地の清流に生息している。県内では、1976年に嘉瀬川水系で発見されて以後記録がなかったが、1990年代に幼虫採集などで佐賀平野の敷河川での生息が判明。	筑後川水系の田手川、城原川、嘉瀬川水系の多布施川、六角川水系の今出川
アオハダトンボ	カワトンボ		成虫は5月～7月で、6月に最も多い。おもに平地や丘陵地の水性植物が繁茂する清流に生息する。県内では春根山地、佐賀平野に産地があり、多布施川の多産は、特筆すべきものである。	筑後川水系の田手川、城原川、嘉瀬川水系の嘉瀬川、多布施川、天祐寺川
アオヤンマ	ヤンマ		成虫は5～7月に見られる。おもに平地のアシヤマコモ、ガマなどが繁茂する富栄養型の池沼に生息する。県内では、1966年佐賀市で発見（九州初記録）されて以来、広く佐賀平野のクリークに分布していることがわかった。	佐賀市及びその周辺（クリーク地帯）に生息
アカシジミ	シジミチヨウ		県内では主に山地帯に分布している。コナラやクスギ林を主たる生息地としているが、近年、山地帯のコナラやクスギの伐採が目立ち、農地化や宅地化の犠牲になっていることが多くみられる。年1回の発生で、佐賀県では成虫は6月上旬～7月下旬に出現する。	鳥栖市九千部山、東松浦郡厳木町作礼山、佐賀郡富士町杉山、富士町北山ダム、東松浦郡浜玉町鳥巢
ウラギンスジヒョウモン	タテハチヨウ		年1回の発生で、佐賀県では、5月下旬～10月下旬にかけて発生し、平地より、むしろ山地帯に見られる。また離島である鳥渡島からも記録されている。	佐賀郡富士町、藤津郡嬉野町、鎮西町馬渡島
ウンゼンルリクワガタ	クワガタムシ		県内では800m以上の落葉広葉樹林にすみ、成虫は6月頃に立枯れに見られるが、その生体は今だによくわかっていない。特徴のある産卵マークを刻めることで有名。抽水植物が繁殖する平地の止水（池やクリーク）に生息し、開放水面にはあまり出て来ず、雑物の陰で生活している。近年、佐賀平野のクリークや池で生息が確認された。	多良山系上部の夏緑樹林帯
エサキアメンボ	アメンボ		生息地4ヶ所ともに最近ではほとんど見られなくなったが、最近になって基山町基山で1頭の雄が採集された。これは20年ぶりの発見である。しかし、他の鳥籠に生息する本種は最近では発見例がない。佐賀県では成虫は3月下旬～10月中旬にかけて、年数回の発生をする。	佐賀市兵庫町のクリーク、佐賀市神園神野公園の池
エゾスジグロシロチョウ	シロチョウ		香振山地での発生期は7月下旬～8月中旬が最盛期である。また、山によって生息環境が異なり、作礼山ではマツ林に多く、香振山ではミズナラ、アカガシに多く見られる。	三養基郡基山町基山、東松浦郡鎮西町鳥渡島・加唐島、東松浦郡肥前町向島
エゾゼミ	ゼミ		香振山地で6月下旬～7月下旬に出現する。標高1000m前後の自然林が主な生息地であり、金山と香振山で生息を確認している。個体数は少ない。	厳木町作礼山、香振村香振山、三瀬村金山
エゾハルゼミ	ゼミ		成虫は6月から9月に発生。幼虫はイネ科植物を食う。個体数は少ないながらも県内各地で記録があったが、1980年代から記録が少なくなかった。	香振村香振山、三瀬村金山、鹿島市経ヶ岳
オオチャバネセセリ	セセリチョウ		止水域に生息するが比較的少ない。	鳥栖市、基山町、富士町、佐賀市、多久市、厳木町、三瀬村、神崎町、三田川町、大和町、小城町、大町町、西有田町、山内町、武雄市、牛津町、香振村
キイロコガシラミズムシ	コガシラミズムシ		幼虫はアカガシを食べ、成虫は年1回の発生で、佐賀県では7月中旬～8月中旬に出現。雌は9月下旬頃まで生き残り、アカガシ休眠芽に産卵する。	相知町、厳木町、伊万里市、嬉野町、武雄市、基山町
キリシママドリシジミ	シジミチヨウ		平地よりも山地帯を主に生息しているが、最近ではほとんど記録されなくなった。1996年に富士町で記録されたものが最後である。年1回の発生で、佐賀県では成虫は6月下旬～7月下旬に出現するが、遅いものは8月に及ぶことがある。	作礼山、香振山、多良岳、九千部山、国見山、八幡岳、金山、経ヶ岳、雷山
クロシジミ	シジミチヨウ		佐賀県では北部の海岸線と島嶼に20産地があるが、どこも個体数は少ない。幼虫の食草は、マンネングサ科のタイトゴメとナガサキマンネングサを食べており、年4～5回の発生をくり返し、佐賀県では成虫は4月中旬～10月下旬に出現する。	鳥栖市河内、東松浦郡浜玉町鳥巢、佐賀郡富士町、東松浦郡厳木町作礼山
クロツバメシジミ	シジミチヨウ			唐津市、東松浦郡呼子町、鎮西町、肥前町の海岸や島嶼



昆虫・クモ類：準絶滅危惧種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
グンバイトンボ	イトトンボ	成虫は5月下旬～7月頃に見られる。丘陵地の湧き水にかわりのあるゆるやかな清流に生息している。県内の生息地は局地的であり、入里に近い。生息地には多産するところがある。	有田町を中心に、県西部で数カ所の生息地が確認されている。
サラサヤンマ	ヤンマ	成虫は5～7月に見られる。おもに丘陵地や低山地のヤナギ類などが疎生する湿地林に生息する。県内では1973年以来各地に生息が確認され、最近佐賀平野の各地や軽原湿原でも発見された。	佐賀市久保泉町ほか県内に局所的に生息
シルビアシジミ	シジミチヨウ	成虫は4月下旬から発生し、10月まで見られる。幼虫はマメ科のミヤコグサを食う。佐賀県では基山の記録を除けば玄海地方に分布が限られる。基山での現状は不明。	唐津市、呼子町、鎮西町、玄海町、基山町
ダイコクコガネ	コガネムシ	牛馬糞に集集し、遊牧地などでみられる。	鎮西町
トラフカミキリ	カミキリムシ	6～9月頃にクワの生木で見られる。	三日月町、北波多村、伊万里市羽多津町
ナゴヤサナエ	サナエトンボ	成虫は6～9月頃に見られる。幼虫は他県では大河の下流域に生息することが多いが、県内では、佐賀市内の小河川の砂泥底で幼虫の生息が確認されているのか特微的である。	嘉瀬川水系の多布施川とその支流。筑後川水系の城原川、佐賀江川
ネアカヨシヤンマ	ヤンマ	成虫は6～7月に見られる。おもに平地や丘陵地のヨシやマコモ、ガマなどが繁茂した池沼に生息する。県内では1974年に佐賀市で生息が確認されて以来、佐賀市周辺の各地で記録されている。	佐賀市及びその周辺（クリーク地帯）に生息
ハルゼミ	ゼミ	県内最大の産地である虹の松原では4月中旬より出現し、5月中旬までその声を聞くが、山地帯では、6月中旬頃まで鳴き声が聞かれる。	唐津市虹の松原、相賀、鏡山、鎮西町渡戸岬、浜玉町鳥巢、小城郡八丁ダム
ヒオドシチヨウ	タテハチヨウ	成虫は5月下旬から発生し、しばらく活動した後休眠し翌春に活動再開し、産卵する。幼虫はエノキを食うが、まれに集団発生することがある。	基山町、鳥栖市、富士町、大和町、脊振村、三瀬村、三田川町、千代田町、佐賀市、牛津町、多久市、大町町、武雄市、西有田町、鹿島市、太良町
ヒコサンオオズナガゴムシ	オサムシ	大石の散在する水源上部のガレ場に生息し、日中はその中に潜み、夜間は地表に現われる。詳しいことはわかっていない。	多良山系、脊振山系上部の水系
ベーツヒラタカミキリ	カミキリムシ	各種広葉樹の枯死部を食べるが、特にシイ類を好むようで、成虫は老木の枯死部に夜間見られる。日中は樹皮の隙間などに隠れている。	武雄市、伊万里市、相知町、大町町、有明町などの里山
ベニツチカメムシ	ツチカメムシ	年1化で成虫はヒサカキ等の樹上の集団を作る。成虫は卵塊及び幼虫を保護し、幼虫に餌となるボロボロノキの実を運んで与える。県内では山麓地帯の雑木林等に生息する。	脊振山系、多良山系の雑木林
ホンサナエ	サナエトンボ	成虫は4月～6月に見られ、5月上旬に多い。幼虫は緩やかな流れの挺水植物の根本や植物性沈積物のある淵やよどみで泥にもぐって生活している。	佐賀平野の田手川、城原川、巨勢川、多布施川
ミスイロオナガシジミ	シジミチヨウ	成虫は5月下旬から発生し、8月まで見られる。幼虫はブナ科のクスギを食う。	鳥栖市、富士町、多久市、厳木町、三瀬村、小瀬村、小町町、大町町、牛津町、富士町、唐津市、太良町
ミヤマアカネ	トンボ	成虫は7月頃に羽化し、10月ごろまで見られる。低山地の水田や湿地の周辺で見られることが多い。	三瀬村、金山、脊振村、富士町、佐賀市、作礼山、七山村、浜玉町、八幡岳、黒髪山では記録されているが、最近（1990年以降）では富士町、佐賀市金立町の記録があるのみ
ミヤマチャバネセセリ	セセリチヨウ	成虫は4月から9月に発生。年2化。幼虫はイネ科植物を食う。個体数は少ないながらも県内各地で記録があったが、1980年代から記録が少なくなった。	佐賀市、相知町、脊振村、三瀬村、富士町、大和町、小町町、山内町、鹿島市、厳木町、鳥栖市、多久市、浜玉町、北波多村、伊万里市、太良町、嬉野町、牛津町
ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	成虫は5月～6月に見られる。おもに低山地や山地の斜面の湧水地で水がしたり落ちるような場所の湿った土やコケの間に幼虫は生息している。	脊振山系、武雄市の山間部に局所的に生息


昆虫・クモ類：準絶滅危惧種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ムスジイトトンボ	イトトンボ	成虫は5月～10月に見られる。平地や丘陵地の挺水植物が繁茂した池沼や湿地の滞水、水田などに生息する。県内では、過去を含め6カ所に生息記録がある。	近年は佐賀市の2カ所で記録がある
ムネホシシロカミキリ	カミキリムシ	6～8月頃にクワの生葉を後食する姿が見られる。	佐賀市、東与賀町、川副町、江北町、大町町、三日月町、武雄市
ヤマキマダラヒカゲ	ジャノメチヨウ	脊振山系のミヤコササが茂る高地に生息し、年2回の発生で、成虫は春（5月下旬～6月上旬頃）、夏（7月下旬～8月中旬頃）に出現する。	九千部山、脊振山、金山
ヨコミゾドロムシ	ヒメドロムシ	水草が豊富な緩やかな流れの河川に生息。幼虫・成虫ともに同様な場所に生息している。	多布施川・田手川


昆虫・クモ類：情報不足種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アオモンギンセダカモクメ	ヤガ	成虫は9月～10月に出現。1973年に外灯に飛来した1頭が記録されているのみで詳細不明。	塩田町大草野
アカスジキンカメムシ	キンカメムシ	ヒノキ、ミズキ、フジ等で発見される。冬期には終齢幼虫が地上の落ち葉の下に潜って越冬する。県内では広く分布すると考えられるが、採集例は少ない。	多良山系、天山山系の雑木林
アシナガサシガメ	サシガメ	地表に生息しており、小型昆虫を捕食する。本県では、多良山系の標高の高い自然林が残る場所を確認している。	多良山系の自然林
エゾコガムシ	ガムシ	1990年6月に1♂が標高650mの湿地で採集されているのみ	七山村
オオトリノフンダマシ	コガネグモ	屋間は脚をちぢめて、葉うらに静止しており、日没後、目の荒い同心水平網を張り、夜明けに食べてしまっって網をたたむ。他のトリノフンダマシの生息しているのよりススキよりも幅が広く、高い位置に生息している。	脊振山、金山、大町町
キノボリトタテグモ	トタテグモ	クス、マツ、スギの古木の樹幹や樹皮のくぼみに袋状の住居の入口に片開戸をつける。1975年に大町町で発見される。1998年、1999年大町町で確認。	大町町福母、大町町不動寺
ギンモンセダカモクメ	ヤガ	成虫は8月に出現する。1982年8月に1頭の雄が採集されたのみで、詳細は不明。なお、当地は公園化され、植生が変化している。	多久市鬼ノ鼻山
シロシタバ	ヤガ	1968年8月に富士町において1頭が記録されているだけで詳細不明。	富士町上無津呂
シロヘリツチカメムシ	ツチカメムシ	カナビキノウに寄生し、雌は卵を保護する。馬渡島では牧場の側溝で得られた。	剣西町馬渡島
ズイムシハナカメムシ	ハナカメムシ	晩秋から春にかけて稲小穂の稲わらに生息するニカメイチュウを捕食する益虫であったが、ニカメイチュウも稲小穂も姿を消した。	久保田町、佐賀市高木瀬町辻、土井、兵庫町
ニシキキンカメムシ	キンカメムシ	幼虫はツゲで育つため、ツゲの自生地に限られる。	武雄市
フタバツチカメムシ	ツチカメムシ		肥前町星賀
ホッケミズムシ	ミズムシ	不明（生息地が確認されていない）。西和田町曲川の生息地は、水田用水の溝の緩流であった。	過去に西和田町で記録がある。
マルコガタノゲンゴロウ	ゲンゴロウ	水生植物の生えた池沼	大和町
ヤマトハガタヨトウ	ヤガ	成虫は11月に出現し、夜間灯火に飛来する。既産地は、常緑のカシ林がよく保存された地域が多いが、県内の産地は近くに社寺林があるものの、農耕地、住宅地が多い。	牛津町下砥川



哺乳類

the mammals

× 哺乳類：絶滅種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ニホンカワウソ	イタチ	河川の中下流域から沿岸部に生息し、水中で魚類、甲殻類を、陸上でノネズミ類、鳥類などを捕食している。川岸に巣穴を掘る。	過去に生息
ニホンジカ	シカ	日中、林内で休息し、夕方と早朝に草地に出てきて、草や広葉樹の葉、木の実等を食べる。普通、母と子からなる数頭の群れで生活し、雄は単独か、雄同士で小群をつくる。初夏に普通1頭の仔を産む。	過去に生息

!! 哺乳類：絶滅危惧Ⅰ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ヤマネ	ヤマネ	森林に生息する。夜行性で、主に樹上で活動する。日中は木の穴、或いは洞などにつくった巣でねむる。果実や昆虫を食べる。冬眠するが、ときどき目をさまして水分などをとる。	多良山系

! 哺乳類：絶滅危惧Ⅱ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ニホンイタチ	イタチ	木の根元や崖の岩石の洞の洞などを巣とする。九州では年2回繁殖し、1度に1～8頭、平均3～5頭の仔を産む。カエル類、ネズミ類、鳥類、昆虫類の他魚類も捕食する。	山間部（春振山系）

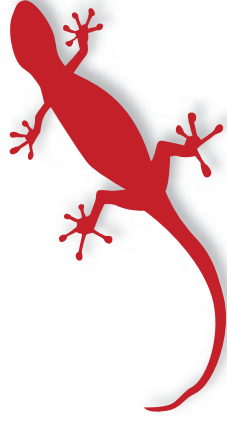
!?! 哺乳類：準絶滅危惧種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
カヤネズミ	ネズミ	低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地などのイネ科植物が密生し、水気のある所に多く生息する。長い尾をかや、ヨシ、ススキなどの植物の茎に巻き付けて登り降りし、それらの種子を食べる。特徴的な巣をつくる。	多久市、唐津市、佐賀市、武雄市、福富町、小城町、大和町、蔽木町、北波多村、富士町
コクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	昼間は洞窟（防空壕跡など）で休息、日没後に出て採餌を行い、日の出前に帰洞する。食物はおもに小型の飛翔昆虫である。初夏に1仔を産む。呼子町内では数頭で生息。	県内での生息記録は東松浦郡呼子町の1カ所と少ない
ユビナガコウモリ	ヒナコウモリ	昼間は洞穴（佐賀ではトンネル）で、数百頭以上の大群を形成する。日没後に出洞して採餌を行い、日の出前に帰洞する。飛翔が極めて速い。	唐津市湊のトンネル



哺乳類：情報不足種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
カワネズミ	トガリネズミ	山間の溪流に棲む。昼も活動するが夜はより活発に活動する。食物は魚・カニ・エビ・水性昆虫・ヒルなどで、糞殖マスやコイ等を食害する。河畔の土中や石の下に営巣する。	確実な生息地は不明
スミスネズミ	ネズミ	低地から高山帯まで広く分布する。植林地、山麓に接した農耕地で湿潤なところを好む。	多良岳、富士町
ハタネズミ	ネズミ	低地から高山帯まで広く分布する。牧草地など草原的な環境や植林地を主な生息地とする	烏栖市基山町、烏栖市幡崎町
ムササビ	リス	低地から亜高山帯までの天然林や二次林などに生息する。夜行性で、昼間は人家や神社の軒下、天井、戸袋、木のうろ等につくった巣にいる。ほぼ完全な雑食であり、木の芽・葉・花・果実・種子を採食する。繁殖は年2回で、春と秋に1～4仔、通常2仔を産む。	昭和55年の鳥獣関係統計（環境庁）に6頭捕獲された記録が残っているが、県内では絶滅した恐れがある。



兩生類・爬虫類

amphibian / reptiles

!! 両生類・爬虫類：絶滅危惧Ⅰ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アカウミガメ	ウミガメ	太平洋沿岸で孵化した稚魚は、黒潮に乗って北太平洋海流→カリフォルニア海流に乗って、カリフォルニア沿岸へ回遊し、その後、北赤道海流に乗って琉球列島付近で成熟して産卵地に帰って来ることが判明したが、佐賀県北部の個体群の生息については全く未知である。玄界灘沿岸：毎年、5月下旬から6月下旬にかけて教頭が上陸後に産卵。秋から冬にかけても湾内で確認。有明海沿岸：確認例はあるが、産卵は未確認。	浜玉町、唐津市、呼子町、肥前町の砂浜

! 両生類・爬虫類：絶滅危惧Ⅱ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
ヤマアカガエル	アカガエル	情報不足。産卵期間は1月から2月上旬。県内での生活史は不明。富士町以外の産地では、観察した翌年は観察できなかった。	春振村一谷、富士町日池・上小副川・上無津呂、七山村荒川、浜玉町鳥巢、伊万里市滝野・東山代

!? 両生類・爬虫類：準絶滅危惧種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
カジカガエル	アカガエル	産卵期：5月中旬～7月上旬。産卵場所：山間部の清流の石の下。約1カ月で幼生（おたまじゃくし）となり、夏の終わりまでには陸上生活に適した幼体となり、翌春にオスは成体となり、メスは翌々年に成体となる。山間部の清流で、水流80 cm/秒、人頭大の転石帯で確認。護岸工事により個体数が減少しつつある。	県内の山間部の清流。
カスミサンショウウオ	サンショウウオ	産卵期：1月中旬～3月上旬。産卵場所：山部のアラカシなどが茂る雑木林の止水域（水田の畦、農業用水路、道路側溝、溜めます等）や若干の湧水域。成体：アラカシなどが茂る雑木林の林床の湿った落ち葉内で生活する。性的に熟するまで1年を要する。産卵期になると、山麓地帯のアラカシなどが茂る雑木林周辺の止水域や農業用水路、道路側溝で確認されている。	鳥栖市～佐賀市～武雄市～鹿島市にかけて標高100m前後の山麓地帯に棲息する。唐津市～東松浦郡～伊万里市にかけては標高100mから海岸線まで棲息する。
ブチサンショウウオ	サンショウウオ	産卵期：4月下旬～5月上旬。産卵場所：アラカシ二次萌芽林内の源流域の流水中の石の下。幼生・幼体：源流域の水中。成体：生活史不明。幼生は、アラカシ二次萌芽林内の源流域で、川底は砂礫質で人頭大から巨大な転石が散在し、水深数cmで、水流が10 cm/秒程度の所で確認。成体の生息地は極めて少ない。	春振山系（基山～九千部山～春振山～佐賀市金立山～雷山～富士町山端～作礼山～浮岳～天山）、多良岳、国見山のアカガシなどが茂る二次萌芽林内の源流域。



両生類・爬虫類：情報不足種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
イシガメ	ヌマガメ	県内での生活史は不明。	七山村檜原湿原。嘉瀬川（富士町畑瀬～藤瀬。栗並）
ジムグリ	ナミヘビ		唐津市、北波多村、相知町、巖木町、富士町、多久市
スッポン	スッポン	平野部のクレークや河川、ダムに生息。	嘉瀬川・松浦川流域（含む支流）
タカチホヘビ	ヘビ	県内での生活史は不明。	七山村、巖木町、富士町、多久市
タコガエル	アカガエル		脊振村、富士町、七山村、鹿島市、巖木町、多久市
トノサマガエル	アカガエル	背面の体色は灰褐色で、繁殖期にオスは灰黄色又は灰緑黄色となり、メスは暗褐色となり、明瞭な淡色の線がある。	上峰町、鳥栖市、三瀬村、背振村、富士町、七山村、唐津市、嬉野町、玄海町、佐賀市、基山町、浜玉町、巖木町、相知町、山内町、伊万里市、太良町
ニホンヒキガエル	ヒキガエル	山間部の沼や河川の上流部の溪流に生息。	玄海町、七山村、巖木町、鎮西町、多久市、富士町、佐賀市

和名		科		生育生息状況	主な生育生息地
イチョウシラトリ	ニッコウガイ			内湾湾奥部潮間帯の泥底に埋在して生息する。	田古里川河口
ウネハナムシロ	オリレイヨフバイ			水深 10m 前後の内湾奥の泥底に生息する。	六角川河口
ウミマイマイ	ウミマイマイ			かつては、付着珪藻が覆うような干潟域にごまをふったように点々と生息していたという記述もあるが、現在は容易には見つけない。	有明海湾奥部泥干潟の潮間帯
オオクリイロカワザンシヨウ	カワザンシヨウ			河口部のヨシ原付近の湿地など。	六角川河口、塩田川河口（世界的分布南限）
オオシャヤセンガイ	リングラ			生息域、生息数ともに減少傾向にあると思われるが、詳細は不明。	有明海湾奥部、詳細は不明。
オオノガイ	オオノガイ			内海や内湾奥の潮間帯泥底に生息する。	田古里川河口
オカミミガイ	オカミミガイ			内湾奥のヨシ原泥底の表層に生息する。	六角川河口、塩田川河口、田古里川河口
オリレイボラ	コロモガイ			水深 10m 前後の内湾奥の泥底に生息する。	糸岐陣内
カプトガニ	カプトガニ			まれに漁網にかかるとで生息は確認できるが、詳細は不明である。	詳細は不明
カワアイ	キバウミニナ			河口部の潮間帯の濡れた軟泥上に生息する。	田古里川河口
キヌカギハマシイノミガイ	オカミミガイ			河口部のヨシ原潮間帯泥底の朽木の下などに生息する。	六角川河口、音成川河口
クリイロカワザンシヨウ	カワザンシヨウ			河口部のヨシ原付近の湿地など。	音成川河口
クリイロコミミガイ	オカミミガイ			河口部のヨシ原潮間帯泥底の石や朽木の下などに生息する。	六角川河口、田古里川河口
クロヘナタリ	キバウミニナ			内湾奥のヨシ原に生息する。	六角川河口、塩田川河口、田古里川河口
ココキナガイ	オキナガイ			内湾奥部潮間帯の泥底に埋在して生息する。ササゲミエガイやテリザクラとともに見られることが多い。	七浦干潟公園
ゴマフダマ	タマガイ			干潟潮間帯砂泥底の表層に生息する。	糸岐陣内、田古里川河口
サキグロタマツメタ	タマガイ			水深 5 ～ 20m の泥底に生息する。	塩田川河口
ササゲミエガイ	サンカクサルボウ			内湾の潮間帯～水深 20m の泥底の表層を巻貝のように匍匐して生活する。	福富海岸、七浦干潟公園、田古里川河口
シイノミミミガイ	オカミミガイ			河口部汽水域潮間帯上部に岩礫がうずたかく堆積した場所や古い石垣の間に生息する。	田古里川河口
シマヘナタリ	キバウミニナ			内湾奥のヨシ原に生息する。	六角川河口、塩田川河口、田古里川河口
スミノエガキ	イタボガキ			泥干潟の表層に横たわるなどして生息する。	田古里川河口
センベイアイワモチ	ドロアワモチ			河口部のヨシ原付近の湿地など	塩田川河口、音成川河口、田古里川河口、拜川河口
チクゴエビ	クルマエビ			河口域に生息するが、量は少なく、詳細については不明である。	筑後川及び六角川の河口域
テリザクラ	ニッコウガイ			内湾湾奥部潮間帯の泥底に埋在して生息する。	七浦干潟公園

貝類・甲殻類・その他

絶滅危惧Ⅰ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
テングニシ	テングニシ	昭和50年代の半ばに実施した干潟調査時には数個を確認できたが、現在はほとんど見られない。市場調査時に網漁業で混獲されたものが数個確認された。	砂泥質の海底
ナメクジウオ	ナメクジウオ	1920～1930年代の有明海湾奥部では、潮間帯にも多数の個体が生息していたようであるが、1960年代以降は激減し、現在は潮下帯に僅かに生息しているに過ぎないと考えられる。	有明海の潮下帯
ナラビオカミミガイ	オカミミガイ	河口部のヨシ原潮間帯泥底の朽木の下などに生息する。	六角川河口、塩田川河口
バイ	エツバイ	水深10～20mの泥底・砂底に生息する。	田古里川河口
ハイガイ	フネガイ	潮間帯から水深10mの泥底に生息する。	田古里川河口
ヒメカワザンショウ	カワザンショウ	河口部のヨシ原付近の湿地など。	田古里川河口
ヒロオビヨフバイ	オリレイヨフバイ	水深10m前後の内湾奥の泥底に生息する。	六角川河口、糸岐陣内
フトヘナタリ	キバウミニナ	内湾の潮間帯や河口上部のヨシ原付近の湿地に生息する。	六角川河口、塩田川河口、田古里川河口
ヘナタリ	キバウミニナ	河口部の潮間帯泥上に生息する。	田古里川河口
ミクリガイ	エツバイ	鹿島市飯田	-
ヤミカワザンショウ	カワザンショウ	河口部の潮間帯泥上に生息する。	福富海岸、七浦干潟公園、田古里川河口
ワカウラツボ	ワカウラツボ	河口部のヨシ原付近の湿地、泥底転石下など、還元的（嫌氣的）環境を好む。	田古里川河口

貝類・甲殻類・その他

絶滅危惧Ⅱ類種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アゲマキガイ	ナタメガイ	1994年から有明海で、その後、八代海でも生息が確認されていないが、2002年に八田江川河口域で大量発生が確認された。	地盤高1.5～4 mの、軟泥から砂泥質の干潟域に生息。
アリアケガニ	スナガニ	湾奥部の河口域に生息するが、詳細については不明である。	湾奥河口域の泥干潟
クマサルボウ	フネガイ	昭和50年代後半には200トン前後の漁獲があったが、現在は個体数が非常に減少している。	糸岐陣内、有明海奥部西岸域で、水深10～20 mの砂質から泥質の海底。
シオマネキ	スナガニ	内湾型の河口や砂浜に多くみられる。	廻里江川、本庄江など
テナガダコ	マダコ	干出するような浅海の砂泥質海底に穴を掘って生息しており、その数は元来余り多くない。	砂泥質の海底
ヒゼンクラゲ	ビゼンクラゲ	大型のプランクトンで時に海面に浮遊しているのが観察できるが、近年その数は少なくなっている。詳細については不明である。	有明海全域（主に湾奥部）
ビゼンクラゲ	ビゼンクラゲ	大発生が見られたのは一番近くでは昭和52年から53年にかけてであった。その頃は網漁業に大量に入網するため操業できないうほどであったが、近年は捜しだすのに苦労するほどである。	有明海全域（主に湾奥部）
ヒメケフサイソガニ	イワガニ	湾奥部の転石やカキ殻がある泥干潟域に生息するが、詳細については不明である。	湾奥部の転石やカキ殻がある泥干潟域
ヒメモクスガニ	イワガニ	湾奥部の河口域に生息するが、詳細については不明である。	湾奥河口域

準絶滅危種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アカニシ	アクキガイ	肉食の巻き貝であるためアサリやモガイ等の地時き式養殖漁場に見られるが、最近では減少傾向である。	湾奥の干潟域及びその周辺の砂泥底、泥底
アズキカワザンショウ	ウミニナ	河口部のヨシ原付近の湿地など	六角川河口、塩田川河口、音成川河口、田古里川河口
イイダコ	マダコ	有明海湾奥部でタコといえば本種を指すくらい代表的なタコであるが、近年漁獲量が減少しており生息数が減少しているものと考えられる。	磯から砂の海底
ウスコシミミガイ	カタクチイワシ	海岸の飛沫帯に転石が重なり合った物所で、泥に埋もれた石の下に棲む。または大規模な内湾の奥部で付近の海水に淡水が流入し、かつ富栄養化している場所を好む。	田古里川河口
ウミニナ	ウミニナ	太良町田古里川河口域には、他のホウジヤの仲間とともに多数生息している。他にも本県有明海に注ぐ河川の河口域には生息していると思われるが、確認していない。	有明海に注ぐ河川の河口域
カハタレカワザンショウ	カワザンショウ	内湾奥潮間帯の5～10cmほど埋もれた石の下や、カニ穴の内側を匍っている。	田古里川河口
シハエビ	クルマエビ	有明海以外の海域では、かなり減少しているものの、有明海では現在でも相当量の漁獲がある。	佐賀県有明海海域
タイラギ	ハボウキガイ	一般に、貝類は年による漁獲変動が大きいですが、中でもタイラギは平成6年の134トンから平成8年の2,245トンと変動が非常に大きい。数年毎に豊凶の波を形成する。	水深5～15mの砂泥質の海底
ハナグモリ	ハナグモリ	内湾湾奥部潮間帯の泥底に埋在して生息する。	各海岸
ハラグクレチゴガニ	スナガニ	大きさは干潟の泥の上で穴を掘って暮らしている。泥中の有機物を食べる。	筑後川水系・嘉瀬川水系・六角川水系などの有明海に面する感潮域～河口に生息する。
ヒラドカワザンショウ	カワザンショウ	河口部のヨシ原付近の湿地や泥上の転石付近に生息する。	六角川河口、塩田川河口、音成川河口、田古里川河口
ヒロクチカノコ	アマオブネ	河口上部のヨシ原付近の湿地や泥上の転石付近に生息する。	六角川河口、塩田川河口、田古里川河口
ペイカ	ジンドウイカ	現在は相当数の生息が認められるが、その詳細は不明である。	有明海湾奥部（佐賀県全域）
ヘイケガニ	ヘイケガニ	元来個体数は余り多くなく、現在は減少傾向のようであるが、詳細については不明である。	湾奥部の砂泥底でやや砂質のところ
ミドリシヤミセンガイ	リングラ	生息域、生息数ともに減少傾向にあると思われるが、詳細は不明。	筑後川、早津江川河口の干潟域
ムシヤドリカワザンショウ	カワザンショウ	河口部のヨシ原付近の湿地など。	六角川河口、塩田川河口、音成川河口

貝類・甲殻類・その他
情報不足種

和名	科	生育生息状況	主な生育生息地
アマグリイロカワザンショウ	カワザンショウ	河口部のヨシ原付近の湿地など。	田古里川河口
ハクセンシオマネキ	スナガニ	内湾型の河口や砂浜に多くみられる。	伊万里市黒川町
ミスゴマツボ	ミスゴマツボ	河口近くの淡水域(用水路や溝など)の泥底を好む。	-

鳥類

アオバズク	32
アカアシシギ	31
アカシヨウビン	31
アカハジロ	32
ウミスズメ	31
オオアカガラ (ナミエオアカガラ)	30
オオコノハズク	31
オオタカ	31
オオハシシギ	32
オオヨシゴイ	30
オシドリ	32
オナガ	30
カラシラサギ	31
カラスバト	32
カラフトアオアシシギ	30
キリアイ	32
クイナ	32
クロサギ	31
クロツラヘラサギ	30
ケリ	32
コアシサシ	31
コサメビタキ	31
コミミズク	32
ササゴイ	30
サシバ	31
サンカノゴイ	31
サンコウチョウ	31
サンシヨウクイ	31
シベリアオオハシシギ	31
シマクイナ	32
ズクロカモメ	31
ダイシャクシギ	31
タマシギ	32
チュウヒ	31
ツクシガモ	30
ツバメチドリ	31
ツミ	31
ツルシギ	32
トモエガモ	32
トラフズク	32
ナベヅル	31
ハイタカ	32
ハチクマ	31
ハヤブサ	30

ヒメクイナ	32
フクロウ	32
ブッポウソウ	32
ヘラサギ	32
ヘラシギ	30
ホウロクシギ	31
マナヅル	31
ミサゴ	30
ミソゴイ	31
ヤイロチョウ	30
ヤマセミ	30
ヤマドリ (アカヤマドリ)	32
ヨシゴイ	30
ヨタカ	31

昆虫・クモ類

アオサナエ	36
アオハダトンボ	36
アオモンギンゼダカモクメ	38
アオヤンマ	36
アカシジミ	36
アカスズキンカメムシ	38
アシナガサシガメ	38
ウラキんじじミ	35
ウラギンスジヒョウモン	36
ウラナミジャノメ	35
ウンゼンリクワガタ	36
エサキアメンボ	36
エゾコガムシ	38
エソスジグロシロチョウ	36
エゾゼミ	36
エゾハルゼミ	36
オオウラギンヒョウモン	34
オオクワガタ	35
オオシモフリスズメ	34
オオチヤバネセセリ	36
オオトリノフンタマシ	38
キイロコガシラミズムシ	36
キイロヤマトンボ	35
キノボリトタテグモ	38
キベリマメゲンゴロウ	35
キマダラカゲロウ	35
キリシママミドリシジミ	36
ギンモンセダカモクメ	38
クロゲンゴロウ	35
クロシジミ	36

索引

クワツバメシジミ……………36
 ゲンバイトンボ……………37
 ゲンゴロウ……………34
 コガタノゲンゴロウ……………34
 コハネアオイトトンボ……………34
 コフキヒメイトトンボ……………34
 サラサヤンマ……………37
 サワダマメゲンゴロウ……………35
 シオアメンボ……………35
 シルビアシジミ……………37
 シロウミアメンボ……………35
 シロシタバ……………38
 シロヘリツチカメムシ……………38
 スイムシハナカメムシ……………38
 スギタニルリシジミ……………35
 ダイコクコガネ……………37
 タイワンツバメシジミ……………34
 タガメ……………34
 チャイロチビゲンゴロウ……………35
 チンメルマンセスジゲンゴロウ……………35
 トゲナベアブタムシ……………35
 トラフカミキリ……………37
 ナゴヤサナエ……………37
 ニシキキンカメムシ……………38
 ネアカヨシヤンマ……………37
 ハルヒ……………37
 ヒオドシチヨウ……………37
 ヒコサンオオズナガゴミムシ……………37
 フジミドリシジミ……………34
 フタボシツチカメムシ……………38
 ベーツヒラタカミキリ……………37
 ベッコウトンボ……………34
 ペニツチカメムシ……………37
 ホツケミズムシ……………38
 ホンサナエ……………37
 マイコアカネ……………35
 マルコガタノゲンゴロウ……………38
 ミズイロオナガシジミ……………37
 ミヤマアガネ……………37
 ミヤマチャバネセセリ……………37
 ムカシヤンマ……………37
 ムスジイトトンボ……………38
 ムネホシシロカミキリ……………38
 モートンイトトンボ……………35
 ヤマキマダラヒカゲ……………38

ヤマトハガタヨトウ……………38
 ヨコミソドロムシ……………38
 ヨコヤマヒゲナガカミキリ……………35
 ヨドシロヘリハンミョウ……………35

哺乳類

カヤネズミ……………40
 カワネズミ……………41
 コキウガシラコウモリ……………40
 スミスネズミ……………41
 ニホンイタチ……………40
 ニホンカワウソ……………40
 ニホンジカ……………40
 ハタネズミ……………41
 ムササビ……………41
 ヤマネ……………40
 コビナガコウモリ……………40

両生類・爬虫類

アカウミガメ……………44
 イシガメ……………45
 カジカガエル……………44
 カスミサンショウウオ……………44
 ジムグリ……………45
 スッポン……………45
 タカチホヘビ……………45
 タゴガエル……………45
 トノサマガエル……………45
 ニホンヒキガエル……………45
 フチサンショウウオ……………44
 ヤマアガガエル……………44

貝類・甲殻類・その他

アカニシ……………55
 アゲマキガイ……………54
 アズキカワザンショウ……………55
 アマグレイロカワザンショウ……………56
 アリアケガニ……………54
 イイダコ……………55
 イチヨウシラトリ……………52
 ウスコミミガイ……………55
 ウネハナムシロ……………52
 ウミナナ……………55
 ウミマイマイ……………52
 オオクリロカワザンショウ……………52
 オオシヤミセンガイ……………52
 オオノガイ……………52
 オカミミガイ……………52
 オリイレボラ……………52
 カハタレカワザンショウ……………55
 カブトガニ……………52
 カワアイ……………52
 キヌカツギハマシイノミガイ……………52
 クマサルボウ……………54
 クレイロカワザンショウ……………52
 クレイロコミミガイ……………52
 クロヘナタリ……………52
 コオキナガイ……………52
 コマダマ……………52
 サキグロタマツメタ……………52
 ササゲミミエガイ……………52
 シノミミミガイ……………52
 シオマネキ……………54
 シハエビ……………55
 シマヘナタリ……………52

スミノエガキ……………52
 センバイアワモチ……………52
 タイラギ……………55
 チクゴエビ……………52
 テナガダコ……………54
 テリザクラ……………52
 テングニシ……………53
 ナメクシウオ……………53
 ナラビオカミミガイ……………53
 バイ……………53
 ハイガイ……………53
 ハクセンシオマネキ……………56
 ハナグモリ……………55
 ハラグクレチコガニ……………55
 ヒゼンクラゲ……………54
 ビゼンクラゲ……………54
 ヒメカワザンショウ……………53
 ヒメケフサイソガニ……………54
 ヒメモクスガニ……………54
 ヒラドカワザンショウ……………55
 ヒロオビヨフバイ……………53
 ヒロクチカノコ……………55
 フトヘナタリ……………53
 ベイカ……………55
 ヘイケガニ……………55
 ヘナタリ……………53
 ミクリガイ……………53
 ミズコマツボ……………56
 ミドリシヤミセンガイ……………55
 ムシヤドリカワザンショウ……………55
 ヤミカワザンショウ……………53
 ワカウラツボ……………53